

# 農作物技術情報 第8号 水稻

発行日 令和6年10月31日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

◆ 今年の栽培管理から、生育に対応した必要な対策を実施できたか、コスト面での無駄はなかったか等、来年に向けて振り返りを行いましょう。

## 1 本年の生育経過

### (1) 育苗期

県内の播種盛期（50%）は平年より1日早い4月15日頃となりました。育苗期の気温は高く推移したことから、草丈は平年よりも長くやや徒長気味の苗となり、充実度がやや低い苗もみられました。

### (2) 活着～分けつ期～幼穂形成期

本年は、冬期間の少雪のため田植え時期に水不足が心配される地域もありました。

県内の移植盛期（50%）は平年より1日早い5月17日頃、終期（90%）は平年並みの5月23日頃となり、各地域とも概ね適期内に田植え作業が終了しました。

田植え後には低温・寡照により初期生育に遅れがみられましたが、分けつ期には高温・多照で推移したことから生育は回復し、6月下旬の茎数は平年比120%となりました。

7月は気温が高く推移し、幼穂形成期は平年より2日早い7月9日頃、減数分裂期は平年より1日早い7月22日頃となりました。

### (3) 出穂・登熟期

出穂盛期（50%）は県全体で8月1日頃となり、平年より3日早まりました。

登熟期間中、気温と日照時間は平年に比べてかなり高く推移したことから、成熟期は平年より6日早く、刈取り盛期（50%）は7日早まりました。

8月中旬の台風5号や9月の大雨などの影響により、倒伏したほ場が多くみられました。

外観品質は、斑点米カメムシ類による着色粒などが確認されています。

### (4) 本年の作柄

9月25日現在、岩手県の予想収量（農林水産省東北農政局、令和6年10月11日公表）は、10a当たり547kg（篩い目幅1.90mm）、作況指数106、と見込まれています。

9月30日現在、令和6年産米の農産物検査結果（農林水産省、令和6年10月29日公表）では、岩手県の水稲うるち玄米の1等米比率は96.1%となっています。

## 2 来年の作付けに向けて

### (1) 育苗

大規模育苗施設では、浸種水温の制御や温度管理・かん水等を細かく行うことが難しい場合があるため、来年に向け、育苗設備や人員体制、作業スケジュールをチェックするとともに、基本に立ち返って必要な技術対策（浸種水槽の保温対策、プール育苗等の技術導入）を講じます。

## (2) 本田管理

### ア 初期生育の確保

初期生育の確保のため、育苗管理や移植後の水管理、栽植密度・植付本数をチェックします。

### イ 中干しの適切な実施

中干しには、過剰分げつの発生や下位節間の伸長を抑える効果があり、倒伏軽減につながります。7月上旬は平年でも降雨が多く、田面が乾きにくい傾向があるため、遅くとも6月25日頃には目標茎数を確保して中干しを開始できるよう、移植時期や生育前半の管理を確認します。

### ウ 病害虫・雑草防除

本年は斑点米カメムシ類や紋枯病の発生が多く、出穂期頃からはノビエの発生が目立つほ場もありました。病害虫・雑草の発生状況や栽培管理について振り返り、適期に防除が実施できるように防除計画を立てます。

### エ 登熟を低下させない水管理

本年も登熟期間中の気温がかなり高く推移しました。登熟前半に高温が続く場合、登熟不良や玄米品質の低下を招く恐れがありますので、夜間かんがいを実施するなど、水の入替頻度を高めます。高温年はとくにかんがい水が不足しやすいので、水の確保が難しい場合は、土壌を常に湿潤状態に保つ管理も検討します。

### オ 適期刈取り

刈遅れは着色粒・胴割粒、白未熟粒の混入率を高めます。県内の出穂は年々早まる傾向が続いており、また、本年のように高温により成熟期が大幅に早まる場合もあるため、早い段階から刈取り時期の見通しを立てるとともに、乾燥調製施設の運用が円滑に行われるよう、稼働計画の策定や設備点検などの準備を進めておきます。

### カ その他

必要な栽培管理がもれなく実施できるよう、現在の営農体制（作業暦や人員、機械装備）と作付規模を照らして、必要に応じて見直しをするとともに、複数品種の作付や苗質の変更、直播栽培などの技術導入による作業分散も検討します。

## 3 稲作の低コスト・省力栽培技術の導入に向けて

肥料・燃油価格は依然として高い状況にあります、以下の観点も踏まえながら総合的なコスト低減・省力化に努めます。

- ① 作付面積の拡大（規模拡大）⇒ 10aあたり生産費の低減
- ② 生産量の増加（収量増加）⇒ 60kgあたり生産費、生産物10,000円あたり生産費の低減
- ③ 販売単価の向上（有利販売）⇒ 生産物10,000円あたり生産費の低減

岩手県では下記のマニュアルを岩手県ホームページに掲載しています。是非一度ご確認ください。

### 低コスト稲作栽培技術マニュアル（令和5年4月）

[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_001/007/686/manual\\_r0504\\_4.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_001/007/686/manual_r0504_4.pdf)

### 岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_001/049/686/hiryokoutoumanyuaru0406.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_001/049/686/hiryokoutoumanyuaru0406.pdf)

### 岩手県スマート農業事例集（令和5年3月）

[https://www.pref.iwate.jp/agri/\\_res/projects/project\\_agri/\\_page\\_002/003/505/iwate\\_smartagri\\_jirei\\_v4.pdf](https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_002/003/505/iwate_smartagri_jirei_v4.pdf)

農作物技術情報「水稻」の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は  
秋の農作業安全月間です**

**ひと休み 急がば回れ 農作業  
ゆとり忘れず 安全管理**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。